

# 授業改善プラン

教科（ 家庭科 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するのは太字

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	学習意義を理解し、実生活で活用できる技能を身に付けさせる。	洗濯表示の読み取りなど、学習意義を理解させることはできたが、実生活で実施することには課題がある。	習得した知識や技能を実生活で活用するところまでを一単元とする。		
	思考力・判断力 表現力	習得した知識・技能を実生活でどのように生かすことができるかを考える。	授業の振り返りでは、「家庭でも行ってみたい」という記述が半数を超えているが、実際の生活までイメージできていないことが課題である。	実際の生活でどのように活用するか、 <b>具体的な記述を ICT を用いて記述</b> させる。		
	主体的に学習に 取り組む態度	上手いいかないことも粘り強く取り組むことができる授業を行う。	上手いいかない時に「どうしたらできるか」自分で考えたり、他者から意見をもらうことに課題がある。	授業の構成を見直し、自分で考えたり、他者と互いに教え合う時間を確保する。		
2 年 生	知識・技能	教員が教え込む授業ではなく、自ら学ぶ授業の枠を作る。	調べたことをそのまま発信する生徒が多く、自ら学ぶことはズレが生じている。	<b>学び方の提示を ICT 等に記録し、保存</b> することで、生徒が自ら学ぶことができるようにする。		
	思考力・判断力 表現力	習得した知識・技能と実生活を結びつけ、自ら実践できるようにする。	授業の振り返りでは、「家庭でも行ってみたい」という記述が半数を超えているが、家庭で実行することには課題がある。	習得した知識や技能を実生活で活用するところまでを一単元とする。		
	主体的に学習に 取り組む態度	効率よく作業するためには、何をすればよいのか考える授業を行う。	実習を時間内に行うことに重きが置かれ、作業効率まで考えることには課題があった。	スモールステップで、目的を明確にした授業構成にすることで、生徒が自然と作業効率を高め、主体的に取り組めるようにする。		
3 年 生	知識・技能	物事を多角的に捉えながら、学習意義に気付けるようにする。	目の前の作業に集中して取り組むことはできているが、その先を見通して作業することには課題がある。	目の前の作業がこの先どのように繋がるのか、作業をする前に考える時間を設ける。		

# 授業改善プラン

教科（ 家庭科 ）

	<p>思考力・判断力 表現力</p>	<p>習得した知識・技能を実 生活で生かす。</p>	<p>実生活と結びつけることはできてい る。しかし、遠い未来を具体的にイ メージすることには課題がある。</p>	<p>ライフプランを作成するこ とで、遠い未来を具体的に イメージできるようにす る。</p>		
	<p>主体的に学習に 取り組む態度</p>	<p>「完成すればよい」では なく、繰り返し改善して いく授業を行う。</p>	<p>期間内に主体的に取り組むことはでき ている。しかし、改善しながら作業す ることには課題がある。</p>	<p>PDCA サイクルを体感でき る題材を行い、改善の大切 さを実感させる。</p>		

カリキュラムマネジメントの視点から

家庭科は、生活全てに関わっているため、あらゆる教科との連携や情報交換を怠らないようにする。